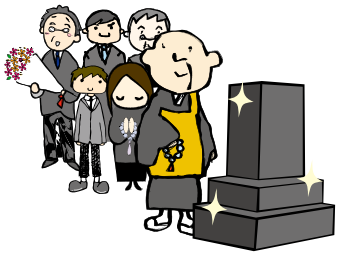
開眼法要（かいげんほうよう）とは？



仏教における本尊・墓 石・仏壇・位牌などを新しく購入したり、修復した際に、僧侶を招いて供養の読経を頂いて行う入魂式（魂入れ）のことです。
読経をあげて頂いた寺院や僧侶に対して贈る謝礼の 表書き献辞「開眼（かいげん）法要 御礼」として用いられます。
身内からの祝賀金は一般的に「赤白花結び熨斗なしの金封」を用い表書きは、「御開眼（かいげん）法要 御祝」・「墓碑建立（ぼひこんりゅう）法要 御祝」とします。

●身内から当家

贈答様式	表書き
仏壇披露・建墓時にお祝い金を贈る	**御開眼法要御祝** 墓碑建立御祝 御入魂御祝 御入佛法要御祝 御入佛御祝 御建碑法要御祝 建碑入魂御祝

身内 → 当家

●当家から僧侶

贈答様式	表書き
お墓入魂（佛）時の寺院・僧侶への謝礼	**開眼法要御礼** 御入魂御礼 建牌慶讃法要御礼 建牌法要御礼 御布施・御礼
仏壇・本尊・位牌入魂（佛）時の寺院・僧侶への謝礼	御入魂御礼 入仏慶讃法要御礼 御入仏御礼 御布施・御礼

当家 → 僧侶

浄土真宗では本尊などに魂を込めるという概念が無いため、開眼法要は営まず「御移徙（ごいし）」と呼ばれる慶事の法要を営みます。教義の違いにより謝礼の 表書きは開眼法要を用いず「御移徙（ごいし）法要」・「建碑慶讃（けんぴきょうさん）法要」とします。

●地区のしきたりや宗教の違いにより、
使い方が異なる場合がありますのでご注意ください。